

# 音楽科3年生 海外研修旅行

日程：令和5年5月16日（火）～5月23日（火）8日間

研修場所：ウィーン・ザルツブルク（オーストリア）

音楽科3年生が、新型コロナウイルス感染症の影響で延期されていた海外研修旅行を行いました。

## ◆1日目 5月16日（火）



セントレアを出発↑



経由地のミュンヘン空港↓



ウィーン空港に到着↑

日本から出国し、ミュンヘン空港を経由して、ウィーン空港に到着しました。長い長いフライトでしたが、明日からの研修が楽しみです。

## ◆2日目 5月17日（水）ウィーン市内研修



美しいウィーンの街並み↑



シェーンブルン宮殿↑



ウィーンフィルハーモニーの  
指揮者体験（音楽の家） →



↑ 鍵盤階段や資料を見学（音楽の家）

モーツァルトの結婚式、葬儀が執り行われた

↓ ウィーン国立歌劇場にて『ドン・パスクワレ』鑑賞

シュテファン大聖堂↓



2日目は、シェーンブルン宮殿、音楽の家、シュテファン大聖堂、ウィーン国立歌劇場での鑑賞と盛りだくさんでした。

なかでも、メインの研修は何とんでもウィーン国立歌劇場での『ドン・パスクワレ』鑑賞。日本では経験できない本物のオペラに心が揺さぶられました。表現力や異次元のアンサンブルに圧倒され、すべてが勉強となった最高の一日でした。



◆3日目 5月18日(木) ウィーン市内研修



↑美術史美術館で美術についても学びました

←美術史美術館の前のマリア・テレジア像の前での一枚



↑美しいエントランス  
ドニゼッティ像を発見→  
(ウィーン国立歌劇場)



↑ウィーン国立歌劇場のガイドツアーに参加  
最高の席から『トスカ』の仕込みを見学



↑モーツァルトの家 モーツァルトが住んだウィーンのアパートで現存しているのは唯一ここだけ



3日目の研修は、美術史美術館、ウィーンオペラ座のガイドツアー、モーツァルトの家での研修でした。昼食はウィーン名物のウィナーシュニツェル、デザートにザハトルテをいただいて食事堪能。昼食の店には、オペラ座で午前中に上演されていたTschickの指揮者に会うことができ、素晴らしい偶然に恵まれました。最高の思い出となりました。

◆4日目 5月19日(金) ウィーン市内研修のち、ザルツブルクへ移動



↑ヨハン・シュトラウスの家

↓展示されている当時の楽器（ヨハンシュトラウスの家）



ザルツブルクのホテルレストランにて夕食。  
窓からの美しい景色、雄大な自然とともに→



↑シシィミュージアム入場



4 日目はシシィミュージアムでハプスブルク家の歴史を美しい皇妃エリザベートの暮らしをたどりながら学びました。そしてヨハン・シュトラウスの家ではガイドさんから、オペレッタ『こうもり』の熱のこもった解説を受け、オーストリアの歴史と関連付けて学ぶことができました。午後からは、バスでザルツブルクへ移動しました。ウィーンとは違う歴史と、美しく雄大な自然を感じながら、翌日のザルツブルク研修に期待が高まりました。

◆5日目 5月20日(土) ザルツブルク市内研修のち、夕方ウィーンへ移動



↑ホーエンザルツブルク城を望むミラベル庭園での一枚。晴天の中、美しい庭園を堪能しました。



↑現地のガイドさんにモーツァルトの話を聴きました

↑ゲトライデ通り研修



←モーツァルトの生家



←ザルツブルクの市場の様子→



↑モーツァルトが洗礼を受けたザルツブルク大聖堂



↓ホーエンザルツブルク城を背景に、美しい景色とともに



↑昼食は心地よいレストランのテラスで  
5日目は終日ザルツブルク研修を行いました。サウンドオブミュージックの舞台となったミラベル庭園を散策し、その後モーツァルトの生家と住居を見学し、当時の楽器や歴史を学びました。

また、メンヒスエレベーターを利用し、ホーエンザルツブルク城と美しいザルツブルクの景色を楽しみました。ゲトライデ通りを歩き、ウィーンとはまた違った文化や街並みを味わえたザルツブルク研修でした。

◆6日目 5月21日(日) 郊外研修(アイゼンシュタット ハイリゲンシュタット)

↓ハイドンが楽長を務めたエステルハーシ城の前での一枚



↑エステルハーシ城の解説を聞きながら見学



↑ハイドンホール(エステルハーシ城)

↓ベートーヴェンがハイリゲンシュタットの遺書を書いたアパート





←散歩道の途中のベートーヴェン像の前での一枚



ベートーヴェンが交響曲第6番『田園』  
の着想をえた小川の小径を散歩→



↑演奏を聴いた黄金の間



↑楽友協会ホールの前での一枚

～プログラム～

1. 広島犠牲者に捧げる哀歌  
ペンデレツキ作曲
2. ヴァイオリン協奏曲  
バルトーク作曲
3. 交響曲第9番『新世界より』  
ドヴォルザーク作曲

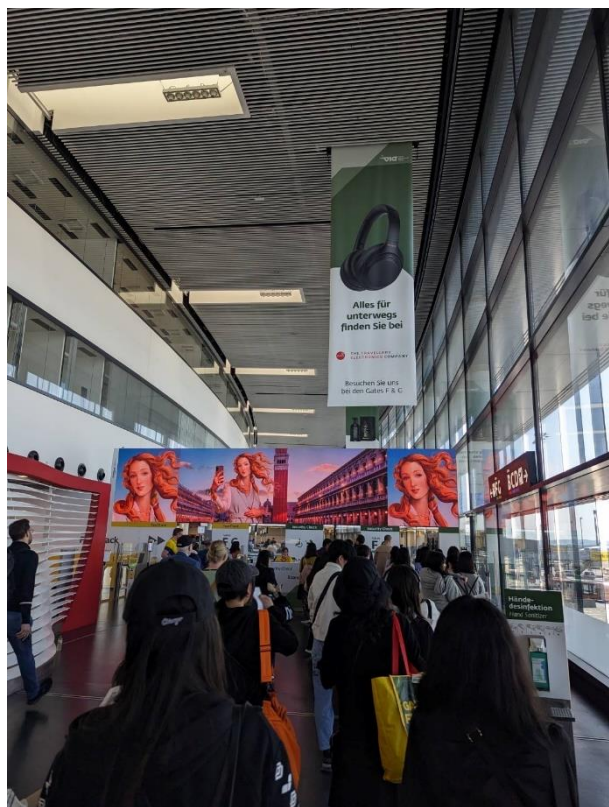


↑美しいエントランスから黄金の間へ入場（楽友協会ホール）

6日目は晴天の下、ハイドンとベートーヴェンのゆかりの地をたずねました。また、ウィーン中央墓地へ足を延ばし、モーツァルトの記念碑とベートーヴェンとシューベルト、ヨハン・シュトラウス親子、ブラームスのお墓をたずねました。皆、それぞれの作曲家の生涯に思いをはせた時間でした。

そして、研修旅行のクライマックスは楽友協会でのウィーン交響楽団の演奏会。黄金の間で鑑賞することができ、演奏後はブラボーと言って立ち上がりそうになりました。最高の締めくくりとなりました。

◆7日目 5月22日(月)～21日(火) 日本へ帰国



↑ウィーン空港から出国



←経由地のフランクフルト空港

↓飛行機の窓からの美しい空



帰国も長い長いフライトでしたが、33名の生徒が無事に日本に帰国することができました。6泊8日のヨーロッパ研修では、音楽だけでなく、オーストリアの文化や歴史などから多くのことを学びました。帰国してからの音楽の学びにますます意欲がわく、実りの多い研修となりました。



～生徒の感想より～

ウィーンもザルツブルクも感動の連続でした。文化も生活も全く違う場所での研修は大変なことも多かったけれどその分学ぶことも多く、今後の自分の音楽活動へ生かしていきたいと思いました。充実した研修がもっともっと続いたらいいのと思うほどでした。

オーストリアの研修に参加できたのは両親や先生方のおかげです。この経験を自分の演奏へつなげ、さらに音楽を追求していきたいと思います。